

「教会の誕生」

使徒言行録 2 章 1 - 4 節

森島 牧人 牧師

今日は「ペンテコステ」という教会の大切な記念の日で、教会のお誕生日でもあります。今日の主日礼拝は、教会学校のみなさんと一緒に、聖書のみ言葉を聞いて行きましょう。

ペンテコステの少し前に、復活された主イエスが二人の弟子に現れ、エマオに向かって一緒に旅される場面があります。主だとは気づかない二人は、夕方、宿でその人と一緒に食事をするのですが、その人がパンを裂き二人に渡された瞬間、主イエスであることに気づきます。しかし主の姿は見えなくなっていました。(ルカ 24 : 13 - 31)

このように復活された主イエスは四十日の間、地上にとどまって弟子たちや人々に現れ、「エルサレムを離れず…父の約束されたものを待ちなさい。あなたがたは間もなく聖霊によってバプテスマを授けられるからである。」と弟子たちにお命じになりました。そして四十日目この日、「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりではなく…地の果てに至るまでわたしの証人となる。」と言われ、その後弟子たちの目の前で天に帰って行かれたのです。弟子たちが天を見つめていると白い服を着た二人の人がそばに立っていて、「イエスはあなたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。」と言ったと聖書は記しています。(使徒 1 : 3 - 11)

さて、今日の聖書はその出来事を記しています。「五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、霊が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。」(同 2 : 1 - 4) と記されています。五旬祭とは、エジプトからの脱出五十日目の日にリーダーのモーセが神様から「十戒」をいただいたことを記念するお祭りで、この祭りのために集まった弟子たちの上に、この出来事は起こったのです。不思議な力が満ちて来るのを感じた弟子たちは外へ出て、いろんな国の言葉で神のみ業と主イエスの出来事を話し出します。それを見た人々は驚き、弟子たちが酔っぱらっているのではないかと訝ったのです。

するとペトロは十一人の弟子と共に立って人々に向かい、今は朝の九時であって酒に酔っているのではないこと、そして「ナザレの人イエスこそ、神から遣わされた方です。このイエスをあなたがたは…十字架につけて殺してしまったのです。しかし、神はこのイエスを死の苦しみから解放して、復活させられました。…わたしたちは皆、そのことの証人です。…あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです。」(同 2 : 22 - 36) と語ります。そして驚いてどうしたらいいのかと問う人々に、「間違っていたことを詫び、イエス・キリストを信じてバプテスマを受けるように」と教えますと、この日だけで三千人がバプテスマを受けて仲間に加わったと聖書にあります。このように集まって持ち物を分かち合い、パンを裂いて共に食事をして神を賛美する人々の群れが最初の教会の始まりでした。民衆は彼らに好意を寄せ、彼らの仲間はどんどん増えて行きました。

しかしその結果、それを妬む者たちが出て来て、そんな人々を捕らえ殺す事態となりました。この迫害は弟子たちの行く先々で激しさを増し、ペトロも逆さ十字架で殉教しますが、それでも弟子たちは主の「全世界に福音を」との命に従い、世界のあちこちに教会を造り、福音を伝えたのです。そしてそれは、弟子たちから弟子たちへと世代を超えて受け継がれて行ったのでした。

そして1549年、福音はカソリックの司祭フランシスコ・ザビエルによって日本にも伝えられました。プロテスタントは、禁教令が解かれた1873年(明治6年)に横浜にもたらされ、日本最初の教会が今の海岸教会です。同年、アメリカン・バプテストのブラウン、ゴーグル両宣教師によって日本で二番目の教会・横浜第一浸礼教会が設立されますが、これはわたしたちバプテスト派の教会で、現在の日本バプテスト横浜教会です。

わたしたちの金沢文庫キリスト教会は、1957年故白根新治名誉牧師のご自宅での「祈りの家」に始まり、その後教会堂がこの地に設立され、1975年金沢文庫教会の誕生となりました。そして2016年には現在の名称となり、2018年に新会堂献堂が献堂され、今に至っています。

主イエスが私たちのために人となり、十字架で殺され、しかし神さまにより復活させられたこのイエス・キリストの出来事を、およそ2000年以上もの間ずっと受け継がれて来た世々の弟子たちの働きによって、私たちの教会も誕生したのです。

(説教要約 羽入田悦子)